

みずほCustomer Desk Report 2018/03/22 号 (As of 2018/03/21)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	-
TKY 9:00AM	106.49	1.2248	130.46	1.4003	0.7689
SYD-NY High	106.64	1.2350	131.06	1.4150	0.7780
SYD-NY Low	105.89	1.2240	130.20	1.4000	0.7672
NY 5:00 PM	106.05	1.2338	130.86	1.4142	0.7765
NY DOW	24,682.31	▲ 44.96	日本2年債	-	-
NASDAQ	7,345.29	▲ 19.02	日本10年債	-	-
S&P	2,711.93	▲ 5.01	米国2年債	2.3056	▲ 4.13bp
日経平均	-	-	米国5年債	2.6733	▲ 2.55bp
TOPIX	-	-	米国10年債	2.8803	▲ 1.83bp
シゴ日経先物	21,180	▲ 165.00	独10年債	0.5905	0.95bp
ロンドンFT	7,038.97	▲ 22.30	英10年債	1.5275	4.40bp
DAX	12,309.15	1.82	豪10年債	2.7040	1.40bp
ハンセン指数	31,414.52	▲ 135.41	USDJPY 1M Vol	7.50	▲ 0.57%
上海総合	3,280.95	▲ 9.69	USDJPY 3M Vol	8.10	▲ 0.33%
NY金	1,321.50	9.60	USDJPY 6M Vol	8.35	▲ 0.26%
WTI	65.17	1.63	USDJPY 1M 25RR	-0.95	Yen Call Over
CRB指数	196.02	1.87	EURJPY 3M Vol	8.48	▲ 0.24%
ドルインデックス	89.78	▲ 0.59	EURJPY 6M Vol	8.75	▲ 0.25%

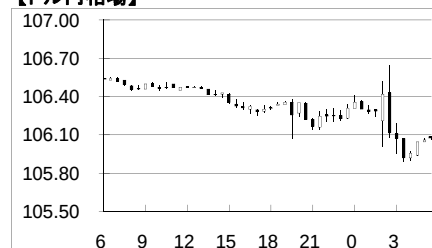
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
3月21日	18:30	英 ILO失業率	1月 4.3%	4.4%
	23:00	米 中古住宅販売件数	2月 5.54m	5.40m
3月22日	3:00	米 FOMC政策金利	- 1.50%-1.75%	1.50%-1.75%
	3:30	米 パウエルFRB議長会見「需要を支えているファンダメンタルズは引き続き底堅い」		
		パウエルFRB議長会見「BS縮小は円滑に進行中、プロセスを変更する計画ない」		

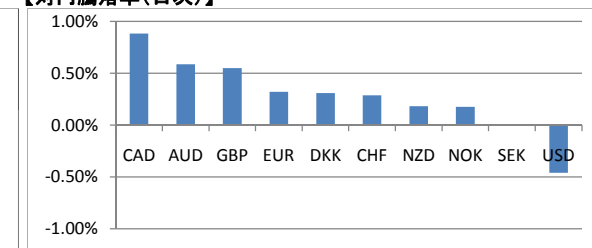
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
3月22日	9:30	豪 雇用者数変化/失業率	2月 20.0k/5.5%	16.0k/5.5%
	18:00	米 マークイット・製造業PMI(速報)	3月 58.1	58.6
	18:00	独 IFO企業景況感/期待/現況	3月 114.6/104.4/125.6	115.4/105.4/126.3
	18:30	英 小売売上高(除自動車・前月比)	2月 0.4%	0.1%
	21:00	英 BOE 政策金利	- 0.50%	0.50%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	- 225k	226k

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	105.40-106.30		130.20-131.20

【マーケット・インプレッション】

昨日海外時間のドル円は下落展開となった。注目されたFOMCでは市場予想通り0.25%利上げを決定。発表直後にドル円は106円台半ばに上昇したものの、その後は年内の予想利上げ回数が4回への上方修正ではなく、3回に維持されたことやパウエル議長の記者会見でもタカ派的な姿勢は見られていないことから、ドル円は反落し、一時106円を割れた。本日のドル円は上値重く推移すると予想。年内の米国の利上げペース加速観測がやや後退している中、昨日海外時間でドル売りの流れを引き継いで、本日のドル円は上値重く推移しそうだ。

アジア	アジア時間のドル円は106.49レベルで取引を開始。東京市場が祝日で、市場参加者が少ないことに加え、海外時間に今週最大の焦点となるFOMCを控え、今後のFF金利予想やパウエル新議長の会見に注目が集まる中、様子見ムードから方向感に乏しい展開が継続。結局、アジア時間の値幅はわずか10銭となり106.42レベルにてロンドン時間に渡る。
ロンドン	ドル円は米中の貿易戦争を懸念し小緩んだ。106.42レベルでオープン。「中国、米関税へ対抗措置を取る」との一部報道に米中の貿易摩擦が懸念され安全資産とされる円が買われ106.07を付けた。その後はFOMCの結果待ちとなり106円台前半で小動きとなり106.27レベルでニューヨークへ渡った。ポンドは英国の早期利上げ期待から堅調推移した。1.4007レベルでオープン。2017年11月-2018年1月の英失業率は4.3%(予想4.4%,前回4.4%)と前回より改善され前々回に続き1975年以降の低水準に戻った。また、11月-1月の平均週間賃金は前年同期比+2.8%(予想+2.6%,前回+2.7%)、前日発表された2月CPIは前年同期比2.7%(1月3.0%)と物価変動を反映した実質ベースでの賃金伸び率のマイナスに改善が見られた。これらを背景に英中銀による早期利上げ観測が強まりGBPは1.4075まで上昇し1.4055レベルでニューヨークへ渡った。
ニューヨーク	106.27レベルでNYオープン。朝方は海外市場の流れを引き継ぎ106.14まで下落する。米2月中古住宅販売件数は予想を上回ったものの、ドル円の反応は限定的となり、午後のFOMC結果発表を控え、106.30付近での様子見が続く。結果は予想通り政策金利を25bp利上げし、1.5~1.75%へ変更され、19、20年の金利見通しが大きく上方修正された。ドル円は、Sell the factから一旦106.01まで下落した。しかし年内の利上げは引き続き残り2回と予想通りであったことから、クロス円の買いが優勢となり、106.52まで戻す。その後開始されたパウエル議長の記者会見では、遅すぎる利上げは経済にリスクをもたらすとの発言を受け、一旦106.64まで上昇する局面もあったものの、インフレに対する見方が予想よりハル派であったことや、貿易問題の不透明感を強く見ていることが明らかになり、ドル売りが優勢となり、105.89まで反落する。終盤に掛けては、イベント通過から狭いレンジでの推移が続き、106.05レベルでクロスした。一方ユーロドルはFOMC結果発表を控え様子見が続き、1.2275レベルでNYオープン。FOMC結果発表を控え狭いレンジでの推移が続く。午後はFOMC結果とパウエル議長の発言を受けドル売りが優勢となったことから1.2350まで戻し、1.2338レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当:田中・西谷